

## 理事長就任のご挨拶



京成電鉄健康保険組合  
理事長 篠崎 敦

残暑厳しい折、加入者の皆様は健やかに過ごしてでしょうか。

このたび松上前理事長の後を受け、理事長に就任いたしました篠崎 敦でございます。

当健康保険組合は昭和11年に設立され、現在の加入者は、京成電鉄をはじめ多くのグループ会社に勤務する社員とご家族、あわせて15,000名を超えております。健康保険組合とはそもそも事業主(会社)と加入者(従業員)が連携して設立し、自主自立の精神で運営している組織であり、その保険給付を通じて加入者同士が時に高額となる医療費負担を支えあうとともに、健康増進・疾病予防などの保健事業を通じて加入者の生活を下支えするという重要な役割を担っています。

しかし、急速な高齢社会の到来と医療技術の進歩により医療費が増加の一途をたどっているとともに、国の高齢者医療制度への過重な拠出金負担により、わが国の健康保険組合はどこも厳しい財政環境に置かれています。

当健康保険組合では、昨年28年度は高齢者医療制度への拠出金のうち、前期高齢者納付金が大幅に減少したことから黒字決算となりました。しかし、29年度は健保組合全体の傾向と同様に高齢者医療制度への拠出金が増加に転じることから、28年度と比べ大幅に収支が悪化する予算を組んでおります。団塊の世代が全員後期高齢者となり、わが国の高齢化がピークを迎える2025年までは健康保険組合の拠出金負担は増え続けるといわれており、30年度以降は再び厳しい財政運営が続くものと思われまます。

このような時期に理事長に就任し、その責務を痛感しているところではございますが、健康保険組合の財政の健全化を通じ、安定した保険給付の継続と加入者の皆様の健康づくりに努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。